

令和6年度 学校経営計画・学校評価

4月4日提出

10月3日提出

3月14日提出

学校番号

43

宿毛工業

高等学校

課程

全

高知県の教育の基本理念
 (1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人
 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人
 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人

基本方針
 ① 予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進
 ② 多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進
 ③ 生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進
 ④ 各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備

【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針)
 ・自己の目標に向けて高い志を持ち、意欲的に取り組もうとする生徒
 ・ものづくりに興味関心があり、主体的に学習する生徒
 ・多様な資格試験へ積極的に挑戦する、意欲を持った生徒
 ・相手の立場に立ち物事を考えることができる、思いやりのある生徒
 ・学校行事、部活動、ボランティア活動に積極的に取り組む意欲のある生徒

【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針)
 ・就職、進学、公務員希望に対応できる科目選択制を導入し、進路選択を充実
 ・ものづくりに関する実践的な実習、課題研究を実施
 ・各種資格試験への挑戦を推奨し、補習や個別指導を行う
 ・地元企業と連携し、職業体験や技術指導等のキャリア教育の実施
 ・タブレット端末等、ICT機器を活用した効果的な授業の実施
 ・学校行事、部活動、ボランティア活動を充実

【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力)
 ・主体的に学ぶ意欲を身に付け、自己実現に挑戦する力を育成
 ・工業に関する知識や技術・技能を身に付け、創意工夫できる力を育成
 ・実社会で役立つ資格を取得し、社会貢献できる専門力を育成
 ・心身ともに健康で豊かな人間性と創造性を備えた生徒を育成
 ・地域社会の発展に貢献できる担い手として活躍できる生徒を育成

学校関係者評価

【学力の向上】 評価 【 A 】
 今年度も進路決定率99.0%(104名中1名未定(3/7現在))であった。就職に関しては第一希望の就職先へ8割以上、公務員は13名、進学は国公立大3名(高知工科大)、私立大へ10名が決定した。学校評価アンケートの結果からは学力向上に関する設問に対して、生徒・保護者・教職員ともに肯定的意見が前年度より増加した。しかし、進路決定率については目標を100%にしているが、昨年度、本年度は未定が1名おり、課題と考えている。

【社会性の育成】 評価 【 A 】
 本年度のインターンシップ、企業・学校見学等の各事業及び学校行事は予定通り実施することができた。各事業を通して、表現力やコミュニケーション能力の育成ができた。学校評価アンケートの結果からは基本的な生活習慣の確立や学校の学習は社会に出て役立つに関する設問に対して8割以上の肯定的意見をいただいた。しかし、交通マナーに関しては充分できていない指摘もあり、継続して交通社会人としての自覚を促し、マナー指導を推進する必要がある。

【チーム学校】 評価 【 B 】
 本校の教育活動に関して学校評価アンケートの結果(保護者)の肯定的意見が項目によって、年々増加傾向にある。特に教職員の進路指導・支援、分かりやすい授業、資格取得、ボランティア活動、部活動等、教育重点目標(目指すべき姿を実現するための取組等)に関する設問に対しては8割近い肯定的意見をいただき、全教職員が協力して指導に取り組んでいることが認知されている。しかし、本校からの情報発信ができていない回答があり、今後の課題と考えている。

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分

		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】		
重点項目	学力的向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	○C層以上の生徒の増加 ・1年 目標:5ポイント増加 ・2年 目標:5ポイント増加 【※学力定着把握検査】 ○授業外学習時間の増加(50%以上) 【※学力定着把握検査】 ○将来のための勉強をしている生徒の増加(90%以上) 【※高知県オリジナルアンケート 問14】 ○年度末成績優秀者(40%以上)	・授業改善「めあて・思判表・振り返り」ができる ・ICTを活用する授業づくりを行う ・学習支援員事業を含めた基礎学力定着補習の実施 ・各教科で小テストの実施や課題を出し提出させ、家庭学習の成果を授業や評価で表す ・各種資格・検定試験取得に向けた補習の実施	A	・1年生 15ポイント増加、2年生 6.0ポイント増加で、ともに目標値達成。 ・授業外学習時間は1年生(78.4%)、2年生(45.2%)、1、2年計(63.4%)、目標値達成。 ・将来のための勉強をしている生徒の増加、91.3%、目標値達成。	・放課後補習の実施 ・家庭学習の課題提供(すらすら活用) ・学習支援員との連携 ・基礎力診断テストの分析及び合同教科会の実施	B	・1年生23.4ポイント増加、2年生16.7ポイント増加で、ともに目標値達成。 ・授業外学習時間は1年生(49.5%)、2年生(65.5%)、1、2年平均(56.8%)、目標値達成。 ・将来のための勉強をしている生徒の増加(問14→86.5%) 目標値未達成。	・放課補習(進路・補力・検定等)の学習時間及び担当教員、対象人数を見直し、更に学習内容を精選する。個別最適化ツール「すらすら」の活用、小テストや日々の課題を提出させ、家庭学習の成果を授業や評価で表す。 ・授業評価システムを活用して授業改善を行い、生徒の理解度を図るとともに継続して、ICT機器を活用した授業に取り組む。 ・日々の授業は基より、特別活動等でも、生徒一人ひとりの進路実現に向けた取組を強化し、目標を持った学校生活を行う。
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○自己肯定感の増加(80%以上) 【※高知県オリジナルアンケート 問18】 ○社会性の増加(80%以上) 【※高知県オリジナルアンケート 問26,30】 ○部活動加入率(運動部+文化部80%以上)	・県教委各事業(企業・学校見学、インターンシップ、産業教育共同研究、外部講師活用、ソーシャルスキルアップ事業)の活用 ・校種間交流事業(ものづくり教室、出前講座) ・各種生徒研究発表会へ参加 ・部活動への参加を推奨	A	・自己肯定感の増加(問18→87.7%) 目標値達成。 ・社会性の増加(問26→97.6%,問30→83.5%) 目標達成。 ・部活動加入率(87.9%)、目標値達成。	・県教委各事業の活用 ・校種間交流事業(ものづくり教室、出前講座) ・ボランティア活動へ参加 ・学校行事の積極的な参加 ・生徒研究発表会へ参加 ・キャリアノートの活用	A	・自己肯定感の増加(問18→86.9%) 目標値達成。 ・社会性の増加(問26→94.2%,問30→81.3%) 目標達成。 ・部活動加入率(87.9%) 目標値達成。	・限られた生徒の生活習慣指導、支援を行う。 ・ボランティア活動や発表会における活動機会をできるだけ増やし、コミュニケーション能力を高める。 ・部活動の加入を生徒会中心で推奨し、加入率を上げて活性化に取り組む。
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○社会性(基礎)の増加(80%以上) 【※高知県オリジナルアンケート 問20】 ○地域・関係機関との連携回数(2)回以上 ○学校評価アンケート肯定意見(90%以上) ○各種国家資格取得率(80%以上)	・インターンシップの実施 ・ものづくり総合技術展への出展、見学 ・産業教育共同研究(機械専攻、建築専攻) ・たたら製鐵と刃物づくり(機械専攻) ・各種国家資格試験の補習 ・課題研究等で地域活性化に寄与するものづくり	B	・社会性(基礎)の増加(問20→78.5%) ・産業教育共同研究(機械専攻)は、企業との取組(計5回)が終了し、生徒の技術力が向上した。 ・たたら製鐵は、1回目(10月)の操業に向けて、着実に準備を進めている。	・各専攻のインターンシップは、計画通りに実施している。 ・ものづくり総合技術展への出展準備はできており、見学については、1年生全員が11月14日に行う予定である。 ・地域活性化に寄与するものづくりは、バス待合所を予定しており、デザインを本校生徒にコンペ中である。	B	・社会性(基礎)の増加(問20→82.6%) 目標達成。 ・産業教育共同研究(機械専攻)の取組(計5回)が終了し、生徒の技術力が向上した。 ・たたら製鐵は、外部講師を計5日間招へいし、作品が完成した。 ・学校評価アンケート肯定意見(生徒88.8%、保護者74.5%、教職員87.6%) 目標値未達成。 ・各種国家資格取得率(54%) 目標値未達成。	・様々な事業を活用し、地域産業や企業について理解を深めるとともに、共同して実践的な研究活動を継続させる。 ・地域活性化に寄与する取組を推進する。
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○各教科、言語活動や情報活用能力を育成する場面を意識的に設定した回数(各学期:2回) ○各教科の学びが実社会での課題発見や解決に結び付けている成果物の割合(課題研究:観点別評価Ⅰ～Ⅲ A 60%)	・授業の中で発表できる時間を確保 ・課題研究の成果物 ・定期考査で課題を解決できる思考・判断・表現ができる	B	・各教科、言語活動や情報活用能力を育成する場面は実践できている。 ・課題研究:観点別評価Ⅰ～Ⅲ Aの数(48%) ※ 観点Ⅲ Aの数(70%)	・情報機器類を活用した授業を行っている。 ・個人、ペア、グループ等の共同学習を行い、全体共有で学習を深めている。	C	・各教科、言語活動や情報活用能力を育成する場面を意識的に設定している。(各学期:2回) 目標値達成。 ・課題研究:観点別評価Ⅰ～Ⅲ Aの数(46%) ※ 観点Ⅲ Aの数(56%)	安定した進路実現に向けた取組みを行うことで学校の魅力化に繋がる。継続して国家資格試験への挑戦を行うとともに、来年度も長期休業期間を活用してオープンスクールを実施する。

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】		
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○ものづくり教育の充実 ○進路実現 ○各種資格取得の推奨 ○デジタル教育の推進 ○各専攻のPR ○防災教育の推進	○ものづくりを通じた人間力育成(課題研究成果物) ○卒業時の進路決定(100%) ○各種資格取得率(80%以上) ○タブレット端末活用割合(100%) ○学校評価アンケート肯定的意見(90%以上)	・生徒研究発表会の実施 ・就職、進学、公務員補習の実施 ・各種資格試験・検定の補習 ・デジタル教育に関する校内研修 ・外部専門人材の活用 ・親子ものづくり教室の開催 ・オープンスクールの開催(幡多地域及び周辺地域中学校の生徒(全学年)、保護者、教員対象) ・課題研究等で防災関係のものづくり	A	・各専攻で、課題研究成果物を製作中 ・タブレット端末活用割合(100%)、全ての科専攻、学年で活用 ・オープンスクール8/23開催(参加者:生徒89名、保護者・教員44名、計133名)	・各専攻で、課題研究成果物を計画を持って製作し、その取組内容を発表するための準備を行っている。 ・進路決定100%を目指し、学校全体で指導を行っている。	B	・各専攻で、課題研究成果物を製作(3年64テーマ、2年24テーマ)。 ・卒業時の進路決定(99.0%) 目標値未達成。 ・各種資格取得率(80%以上) ・タブレット端末活用割合(100%)、全ての科専攻、学年で活用 ・学校評価アンケート肯定的意見(生徒:88.8%、保護者74.5%、教職員87.6%) 目標値未達成。	・各補習、面接指導等を継続して実施する。 ・早期及び放課後の時間帯を活用した検定・資格試験対策学習を継続して実施する。 ・難易度の高い各種検定、資格試験へ受験を促す。
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○現状課題年間を通して、教職員の不祥事が発生している。継続した緊張感と倫理意識が不足していると推察する。 ○校内研修の実施回数(3回) ○不祥事防止委員会の実施回数(3回)	・校内研修の開催 ・不祥事防止委員会の開催 ・衛生委員会で情報共有 ・目標設定シートによる面談	A	・校内研修(5/1,6/25,9/2,9/26)4回 ・不祥事防止委員会(4/24,6/19)2回 ・教職員への注意喚起、周知(4/1,5/14,5/24,6/13,7/11,7/18,9/12)7回 ・7、8月を不祥事防止強化月間に指定	不祥事防止委員会、職員朝礼、定例職員会等で、教職員の不祥事防止の徹底を行う。	A	・校内研修(11/29,2/7,3/6)3回 計7回 ・不祥事防止委員会(11/25,2/3)2回 計4回 ・教職員への注意喚起、周知(10/29,10/30,11/16,12/10,12/24,1/23,1/27)7回 計14回 ・12、1月を不祥事防止強化月間に指定 計4ヶ月間	・更に、様々な機会をとらえて、教職員一人ひとりが不祥事を自分ごとと捉えるように、不祥事の根絶に向けての取組を行う。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○良好な健康状態を保つ ○各種休暇の完全消化 ○時間外労働時間60時間超ゼロを目指す	○勤務時間外労働月間45時間超(30%以内) ○勤務時間外労働時間60時間超(10%以内) ○職員会、各種委員会の勤務時間内終了 ○ICT教材及び教材、教具の共有化 ○夏期休暇取得率(100%)	・各分掌業務の分担化 ・部活動サポート事業等の外部人材の活用 ・運営委員会や定例職員会のペーパーレスの継続及び勤務時間内終了 ・各教科で教材を共有し作成時間短縮 ・長期休業期間中に閉校日を設定	B	・勤務時間外長時間勤務者4月～9月まで45時間超は累積36名(月平均6人12.5%)、目標値達成 ・勤務時間外長時間勤務者4月～9月まで60時間超は累積8名(月平均1.3人2.8%)、目標値達成 ・夏期休暇取得率(89.6%) 目標値未達成	・長期勤務者へのヒアリング ・部活動顧問の業務分担化 ・継続した運営委員会、定例職員会、各種会議の勤務時間内終了およびペーパーレス化 ・管理職、守衛さんによる校内巡回の継続 ・終業時間(17時)をチャイムにてお知らせ	B	・勤務時間外長時間勤務者4月～2月まで45時間超は累積44名(月平均4人8.3%)、目標値達成 ・勤務時間外長時間勤務者4月～2月まで60時間超は累積11名(月平均1人2.1%)、目標値達成 ・夏期休暇取得率(89.6%) 目標値未達成	・守衛さんによる巡回、戸締りの継続(時刻19:00目途)。 ・管理職からの声かけ、巡回。 ・夏期、冬期休業中に閉校日を5日間設けることで休暇を取得しやすくなる。 ・分掌業務では業務分担の一覧作成を継続して行う。 ・部活動指導で休みがとれる時期は積極的に休暇を取得する。